

「平成 22 年度総会及び講演」報告

1. はじめに

2010年(平成22年)5月20日、平成22年度防災委員会総会を札幌市民ホールにて、開催しました。

本稿では、総会概要及び平成22年度防災委員会の事業計画、併せて総会後の講演の概要について、報告します。

2. 平成 22 年度総会の概要

平成22年度総会及び講演は、下表のとおり開催され、参加者数は42名でした。

- 司 会 防災委員会 副幹事 小林正明
- 開会挨拶 防災委員会 委員長 高宮則夫
- 議 事 防災委員会 幹 事 林 宏親

(1)平成21年度事業内容及び決算報告

(2)平成22年度事業計画及び予算

部会活動報告

地 盤 部 会	幹 事	河村 巧
交 通 部 会	幹 事	中川 泰孝
水 工 部 会	幹 事	福間 博史
都 市 部 会	部会長	花澤 勝則
防災教育WG	リーダー	城戸 寛

講演「気象庁の津波防災への取り組み」

札幌管区気象台地震情報官 山本剛靖氏

閉 会



写真-1 高宮委員長の挨拶



写真-2 会場の様子

について説明し、会場出席者の承認が得られました。

22年度の活動内容としては、委員で構成される事務局(9名：総合幹事会)及び地盤(18名)、交通(18名)、都市(19名)、水工(18名)の4研究部会体制による「防災・減災」に関する調査研究を進めます。

また、その研究成果の発表あるいは、外部講師による啓蒙活動の場として継続的に実施している防災セミナーを2回開催します。この防災セミナーは、

技術士会会員の CPD を支援する側面も持っています。特に、今年度 1 回目の防災セミナーは、第 20 回目という区切りの開催になるため、記念防災セミナーとして、技術士会会員のみならず市民にも参加していただける内容で、9 月開催を予定しています。

さらに、防災委員会の調査研究成果を社会へ還元するとともに、技術士の社会貢献に資することを目的として、市民防災セミナーも実施しています。これは、札幌市各区にある区民センター事業を支援する形で進めているもので、個々人の自覚に根ざした「自助」、身近な地域コミュニティなどによる「共助」などを広く社会に知っていただく市民向けセミナーです。21 年度は、清田区(8 月開催、38 名参加)と東区(2 月開催、47 名参加)にて開催しました。22 年度も、講演内容の拡充を図りつつ、2 回行う予定です。

4. 講演の概要

講演は、札幌管区気象台気象技術部の山本剛靖地震情報官から「気象庁の津波防災への取り組み」と題して、まだ記憶に新しい 2010 年 2 月 27 日にチリ中部沿岸で発生した地震による津波の概要や気象庁における津波の予測・観測などについて、ご講演をいただきました。講演内容は、以下の 3 点でした。

(1) 2010 年 2 月 27 日にチリ中部沿岸で発生した地震による津波

この地震の発生機構、チリ沿岸での過去の地震活動など基本的なことから、日本において観測された津波の状況や津波警報・注意報の発表状況までわかりやすい解説がありました。特に、津波の伝搬シミュレーションが目を引きました。

(2) 気象庁による津波の予測と観測

従来の津波予測は、経験則に基づいて行われてきましたが、現在では「量的津波予報」へ移行していることが紹介されました。とはいえ、地震直後にわかる情報は、震源の位置と地震のマグニチュードに限られるため、これらの情報から的確かつ早くに津波の高さを予測することの難しさが伺えました。津波の高さと被害の程度の関係など、津波警報・注意報の持つ意味についても説明がありました。

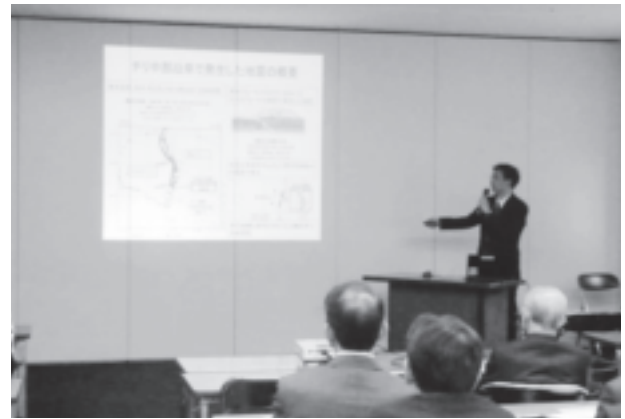


写真-3 山本地震情報官による講演

(3) 気象庁における地震・津波防災の周知広報への取り組み

気象庁が発表する情報が、自治体や住民による防災・減災行動に結びつくためには、情報の意味が事前に理解されていることが重要なことから、周知広報活動を通じて災害を引き起こす現象を含めて理解してもらうことに力を入れているとのことでした。防災委員会が、現在取り組んでいる情報発信の重要性を改めて認識させられるお話でした。

なお、今回の講演は、気象庁の広報活動の一環である「出前講座」を利用させていただきました。公共性・公益性のある団体が非営利で開催する集まりには、講師を無償(旅費は実費)で派遣してくれるそうですので、興味のある方は利用されてはいかがでしょうか。

5. おわりに

防災委員会では、技術士の社会貢献の観点から、引き続き「防災から減災へ」に向けた研究活動を行っていきます。さらに、「技術士による防災教育」をキーワードに、研究活動の成果を広く社会に対して情報発信していく予定です。